

2024年度 群馬大学共同教育学部
学校推薦型選抜・帰国生選抜問題

社会専攻

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は1冊（問題は2ページ）、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚です。
落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
- 3 受験番号と氏名は解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
- 4 解答は指定の解答用紙に記入してください。
- 5 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 6 問題用紙と下書用紙は持ち帰ってください。

社会専攻 小論文

次の文章を読んで、以下の間に答えなさい。

森林破壊や生物多様性の喪失、気候変動に伴う温暖化や海面上昇など、サステナビリティの議論において最頻出のテーマである環境問題ですが、私たちはなかなか自分たちに直接関係のあることととらえられていない部分があるのではないのでしょうか。確かに毎年、夏に猛暑日の日数を更新したり、季節外れの台風によって甚大な被害を受けた地域が出たり、というようなニュースを頻繁に耳にするようになっていますが、一方で環境問題の状況を伝える情報はもうかれこれ30年来あり、どうもこのことについて解決に向かっているという感覚が持てません。

環境問題の状況を伝える情報は、少し調べただけでも膨大に出てきます。例えば、気候変動については、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書が広く知られています。2013年に発表された第五次評価報告書では、温暖化対策を最も積極的に実施した場合には、1986～2005年の20年間の平均気温に比べて、2081～2100年の20年間の平均気温が0.3～1.7℃上昇し、同時に海面水位は26～55cm上昇する可能性が高いと予測されています。また、温暖化対策をほとんど行わなかった場合には、平均気温が2.6～4.8℃上昇し、海面水位が45～82cm上昇するとされ、科学的予測に基づいた情報が示されています。

このようにして環境問題について詳しく知ることは容易で、予測される変化についてもイメージがしやすいのですが、それでもどうも日々の生活に引き寄せて考えてみると、必要な行動ができていないのかどうかわからなくなります。例えば温暖化の事実を知っていても暑い日にはエアコンの設定温度を低めに設定しますし、自動販売機でペットボトル入りの冷たい飲み物を買ってしまいます。これらは熱中症対策と解釈して納得することにしたとしても、ではスーパーでプラスチック容器に詰められているお惣菜を買うことはどうなのでしょう。これについても、利便性が勝っている部分が多いようです。環境問題に照らしての判断よりも、消費行動に正当な解釈が付けられるかどうか、私たちのとる行動のひとつの基準になっているようです。(1)こうした状況には、環境問題に照らして、私たちの消費行動の一つひとつに、逐一理由説明が求められているような、そんな息苦しさも感じます。

こうした状況に陥ると、今度はそもそもプラスチック製の容器に入っているものを買わざるを得ない状況が悪いのだと仕組みのほうを非難したくなってきますが、これも建設的な議論とは言えなさそうです。なぜなら、プラスチック容器があるおかげで私たちは様々な商品を遠くから品質を落とすことなく輸送でき、かつ安価に購入することができているからです。プラスチックを徹底的に排除したら、私たちの身の回りの多くのものは姿を消し、手に入れられる場合には非常に高額となって、最終的には生活の質が大きく下がってしまうことになるでしょう。プラスチックの代わりに、紙をはじめとする代替品の開発が進められていますので、今後、徐々に脱プラスチックが進んでいくことに期待したいです。

プラスチック製品はほんの一例で、電気、ガス、上下水道、ガソリンや灯油と他の資源についてもまったく同じことが言えます。環境負荷と引き換えに便利な暮らしを手に入れているわけですから、頭では理解していながらも、なかなか個々人の行動変容に結びついていない、というのが現状かと思います。

スウェーデンの10代の環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが2019年9月に国連で気候変動に対する早急な行動を求めた演説は、日本でも広く報じられ大変話題になりました。しかし、あの力強い演説を聞いたあとも、著者である私個人の基本的な消費行動は、プラスチック製レジ袋の有料化に伴ってマイバッグを持参したり、自動販売機でジュースを買わなくてもよいようにマイボトルで水を持ち歩くようになった程度で、残念ながら(2)本質的な変化を遂げてはいません。これは私の共感力や行動力のなさを示しているのでしょうか。それとも、もっと違うところに理由があるのでしょうか。

出典：工藤尚悟『私たちのサステナビリティ—まもり、つくり、次世代につなげる』岩波ジュニア新書、59～63ページ、2022年（出題の都合上、一部表記・表現を改めた。）

問1 下線部(1)の「こうした状況」とは、どのような状況のことか。本文を参考に、本文の他に考えられる具体例を一つ挙げ、説明しなさい。(200字程度)

問2 下線部(2)で筆者は「本質的な変化を遂げてはいません」と述べているが、環境問題の解決に向けた「本質的な変化」とはどのようなものだろうか。あなたの考えを述べなさい。

(600字程度)